

令和5年12月・1月ご利用者アンケート集計結果を受けて

ドーン事業共同体

1. 回答者について

令和5年12月1日から令和6年1月31日までの2カ月間で回答いただいた後期アンケート数は209部となった。今年度は前期が150部、後期はそれを超える回答数であった。回答団体の所属は「登録団体」23%、「男女共同参画推進関連のNPO団体」3%、「青少年健全育成関連のNPO団体」3%、「その他NPO団体」5%、「個人利用」12%、「会社・法人関係」18%、「国・地方公共団体」4%、「文化芸術活動団体」6%、「任意団体」21%、「その他」5%となっている。男女共同参画目的や青少年健全育成目的の団体利用の割合は29%となっている。目的施設として男女共同参画推進をはじめ青少年健全育成に関連する団体の利用は重要である。アンケートにご協力いただくことで、受付スタッフと利用者とのコミュニケーションも図ることができている。

①ご利用頻度について ②ドーンセンターご利用のきっかけ

ドーンセンターを利用する頻度は、「年に数回」が43%、「月に1回」が25%、「月に数回」が17%、「年に20回以上」が6%あり、またご利用のきっかけとして「定期的に利用している」、「過去に利用したことがある」との回答が79%と、リピーターとしてご利用いただいていることがわかる。一方、初めて利用した団体は全体の9%を占めている。ご利用のきっかけとして、HPを見ての回答が8%あった。この結果からも新規利用者獲得のためにはHPやSNSなどの効果的なweb戦略の展開が必要だと考えられる。

③ご利用された施設 ④ご利用された内容について

ドーンセンターの各施設に対して広くアンケートに答えていただいている。利用内容は会議会合が41%と一番多いが、オンライン会議での利用も5%あり、コロナが一旦終息し、対面での交流が増えたがオンライン会議も定着しており、これはコロナ後の社会情勢の変化によると考えられる。

2. ドーンセンターご利用満足度について

次回もドーンセンターを利用しようと考えている団体は94%となっており、総合満足度として満足、少し満足で85%の評価をいただいた。貸会議室利用の満足度、受付対応も概ね満足いただいている。無料wi-fiのつながりやすさも改善を進めており、さらに満足いただけるようにしていく。

3. 施設を借りる上で重要なこと

「利用料金」30%、「立地・アクセス」31%、で会議室を選択されるという団体が多く、次に「収容人数」17%であったが、「web環境」で貸会議室を選ぶという団体も6%あった。このことから、当館の特徴として、利用料の安さ、立地・アクセスで選ばれていると考えられるが、コロナ後においての会議室利用としても、収容人数（ソーシャルディスタンス）の対策や、web環境（オンラインでの実施など）が引き続き重要視されていることがわかる。

4. 他館の利用状況について

ドーンセンター以外に利用される施設のアンケートへの回答が、80件あった。

「エルおおさか」と回答した団体が26件、大阪産業館が3件と天満橋周辺で会議室を利用している。クレオ大阪が8件、その他公民館、区民センターを多数上げていることなどから、アンケートに回答された利用者の多くが、公共施設としての会議室を利用していることがわかる。クレオ大阪を利用しているとの回答から、ドーンセンターと同様に男女共同参画関連の利用者が往来しているものと考えられる。

また、東大阪市文化創造館、フェニーチェ堺など新施設を利用されている団体もあり、今後ドーンセンターの設備の老朽化の懸念もあるが、利用団体に選んでもらえる施設となるよう努力していく。

今後もドーンセンターの施設目的である男女共同参画・青少年健全育成に関する利用団体へのサービス拡充を図り、会議やイベントなどのオンライン活用のデジタル社会に向けた会議室利用もアピールし、会社・法人関係の利用獲得にも繋げていきたい。これからもより多くの利用者にご利用いただけるよう努めていく。